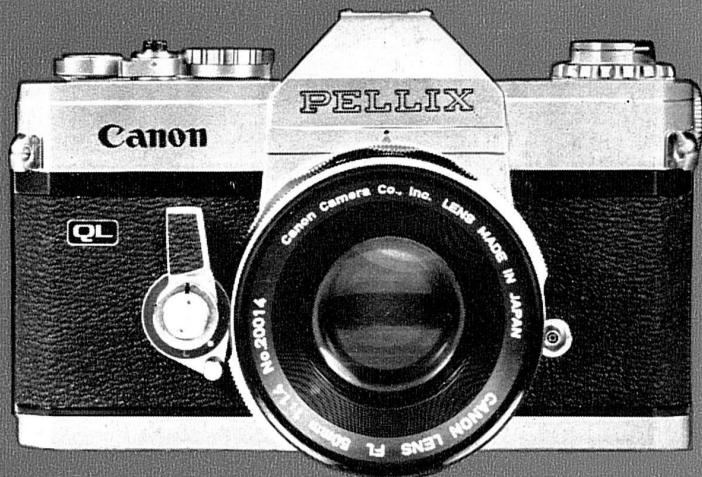
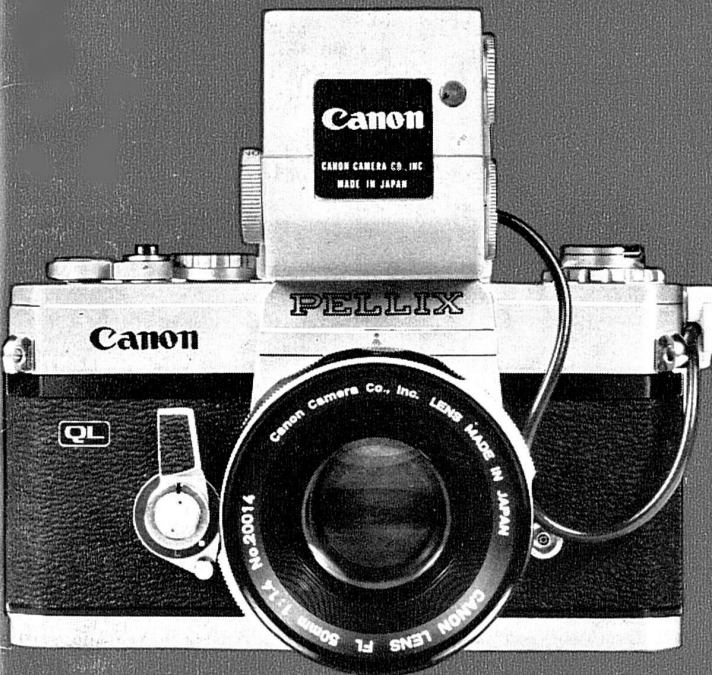


# Canon QL ペリックス

使用説明書



このたびはキャノンペリックス QL をお選びくださいますことありがとうございます。  
ごさいます。

キャノンは世界のカメラとして親しまれ、わが国写真界発展の道をひらくとともに、各種のキャノン製品を通じて皆様の「楽しい生活」の実現にたゆまぬ努力を続けてまいりました。

つねに新しい時代の要求とセンスを反映した製品企画にもとづいて、よりすぐれたキャノンをお届けすることに心がけ、多年の経験に加えて独自の理論と生産技術を総合した、最も近代かつ合理的な生産方式で、材料から完成品まで一貫作業により製造を行っております。したがって、品質性能はもちろん、デザイン、価格面のすべてにわたって必ずご愛用者皆様のご満足を頂けるものと信じております。

ご家庭に、ご研究に、ご旅行ハイキングにキャノン製品を十二分にご利用くださることを念願いたしております。

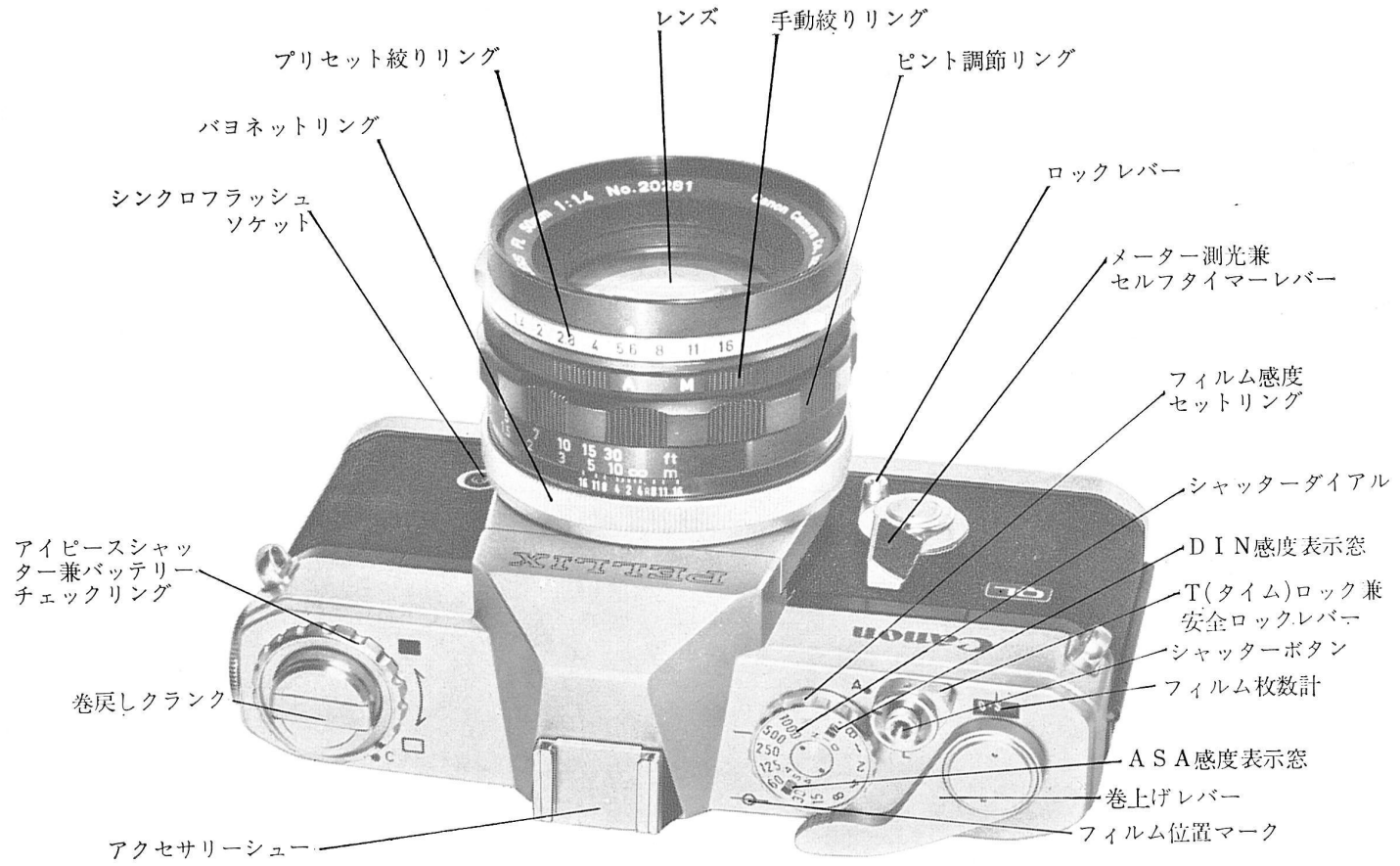
### ご使用のはじめに

・なによりもカメラに慣れることが大切です。

まず使用書をお読みいただき、各部の各称を覚え、操作も順を追って理解しましょう。このようにして正しい扱い方をマスターすればカメラの性能はいつも最高に発揮され、あなたの目と同じように思いのままに駆使することができます。

キャノンズームレンズ FL 85 mm~300 mm F5 による作例





プリセット絞りリング

レンズ

手動絞りリング

ピント調節リング

バヨネットリング

ロックレバー

シンクロフラッシュ  
ソケット

メーター測光兼  
セルフタイマーレバー

フィルム感度  
セットリング

シャッターダイヤル

DIN感度表示窓

T(タイム)ロック兼  
安全ロックレバー

シャッターボタン

フィルム枚数計

ASA感度表示窓

巻上げレバー

フィルム位置マーク

アイピースシャッター兼バッテリー  
チェックリング

巻戻しクランク

アクセサリシュー

## キヤノンペリックス QL の主要性能

- 型 式:** 35 mm フィルム用 1 眼レフカメラ。
- ファインダー:** ペンタプリズム使用のアイレベル式。ウエストレベルビューワー 2 型の取付け可能。
- ピントグラス:** フレネルレンズ使用、特殊処理の高解像力性ピントグラス。プリズムスクリーン距離計内蔵。
- ミ ラ ー:** 固定ペリクルミラー (特殊半透明鏡)
- 標準レンズ:** FL 58 mm F 1.2 FL 50 mm F 1.4
- 絞 り:** 完全プリセット自動絞り装置内蔵。解除可能。
- シャッター:** 倍数系列 1/1000~1 秒等間隔目盛および B (T) X, 1 軸不回転ダイヤルフォーカルプレーン シャッター。(チタン幕使用)
- 内蔵メーター:** シャッター ダイヤルと絞りに連動する定点式 新 TTLM CdS メーター。EV1~18 (ASA100 F 1.4) のワンレンジ式。  
使用感度は ASA25~2000。  
MD 型 1.3 V 水銀電池 1 コ使用。
- 測 光:** セルフタイマー兼用の測光レバーによりメーターは作動する。クランプ装置

により連続測光が可能

**超低照度測光:** ブースター (超高感度補助メーター) の接続で (ASA F 1.2) EV 1.5 1/2 秒~ -4.5 30 秒まで測光可能。MD 型 1.3 V 水銀電池 2 コ使用。

**バッテリーチェッカー:** 水銀電池用チェッカー内蔵。

**シンクロフラッシュ:** FP 接点および X 接点。FP 級, M 級, F 級, スピードライトに同調可能。タイムラグ自動調整式。JIS B 型ターミナル。

**内蔵セルフタイマー:** シャッターボタンで始動する時限調節式。

**巻上げレバー:** 1 作動 174° 小刻み巻上げ可能。

**フィルム装填方式:** キヤノンの開発による QL 機構を備えた簡易装填方式、裏蓋開閉式。

**フィルム巻戻し:** 巻戻しボタンおよびクランクによる。

**フィルム枚数計:** 自動復帰順算式。

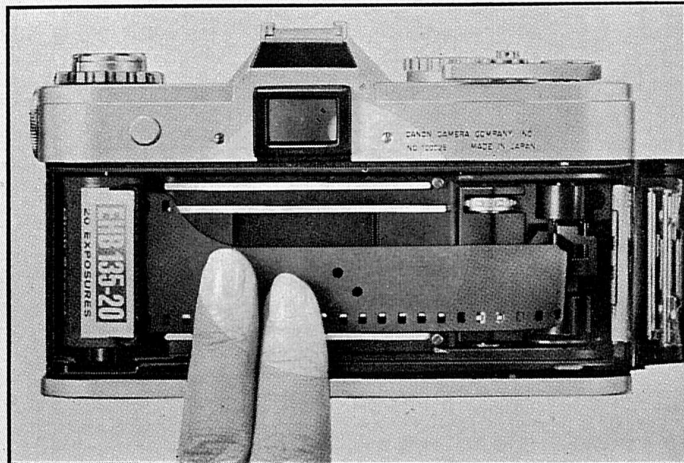
**交換レンズ:** 自動プリセット絞り式 FL 系列各種。

**大きさ・重量:** 144×91×43 mm/755 g。(ボディのみ)  
その他、各種安全装置、アクセサリ完備。

## 目 次

水銀電池のつめ方……………	8	カメラの構え方……………	27
(バッテリーチェック)		フィルムのつめ方 (QL 装填)……………	28
巻上げ……………	10	(フィルムの感度表示, 正しいフィルム装填の 確認)	
(撮影枚数表示, シャッターの安全装置, レン ズの取付け)		フィルムの巻戻し……………	32
シャッターと絞りの調節……………	12	セルフタイマーと撮影……………	33
(シャッターダイヤル, レンズの絞り, プリセ ット絞り, プリセット絞りの解除)		フラッシュ同調……………	34
TTL メーターの使い方……………	16	レンズの取扱い……………	35
(その準備)		<レンズ交換, 距離目盛, 赤外指標 R(赤外マ ーク), フィルム位置マーク, 被写界深度目盛, レンズマウント (FL レンズと R レンズ)>	
メーター測光レバーのロック……………	17	二重露出……………	40
露出のきめ方 1 (絞りで調節)……………	18	フィルター……………	41
露出のきめ方 2 (シャッターで調節)……………	19	カメラの保存と手入れ……………	42
キヤノンブースターの使い方……………	20	FL交換レンズ群……………	44
(準備と取付け, 測光)		アクセサリ……………	45
ピントの調節……………	25		
構図とファインダー……………	26		

**1** フィルムをつめる



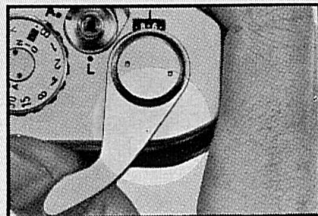
キャップをはずす



**2** 感度を合わせる

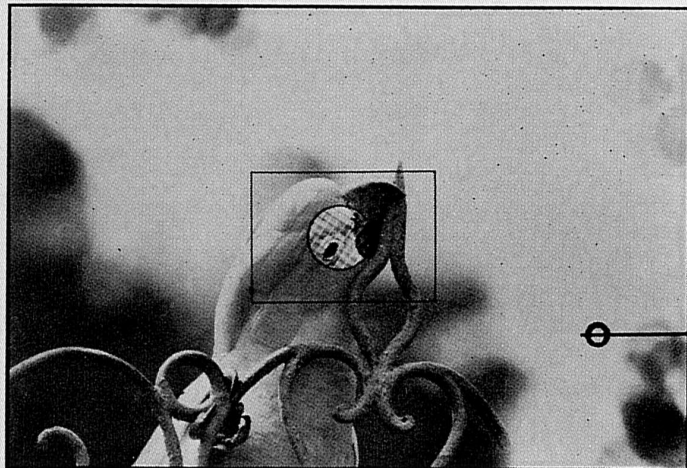


**4** ファインダーをのぞく



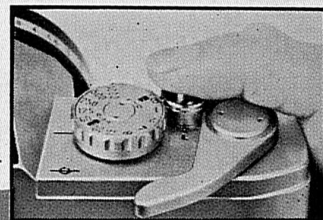
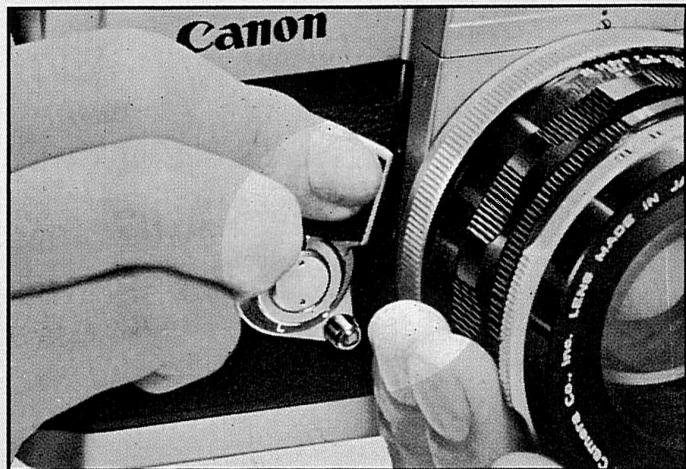
**3** レバーを巻上げる



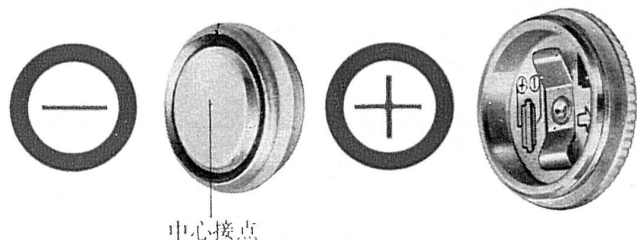
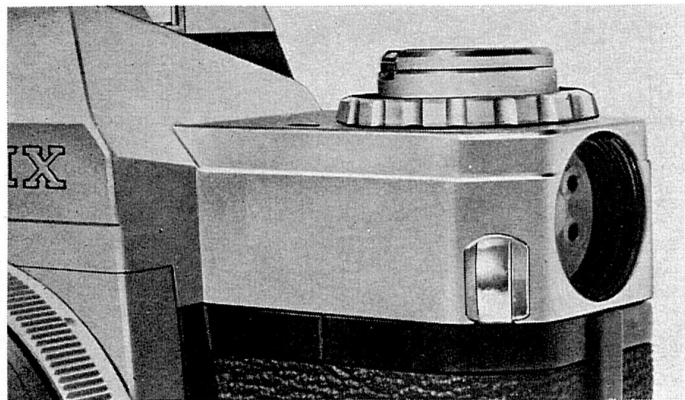


**5** ピントを合せ構図をきめる

**6** メーターで露出をきめる



シャッターボタンを押す



## 水銀電池のつめ方

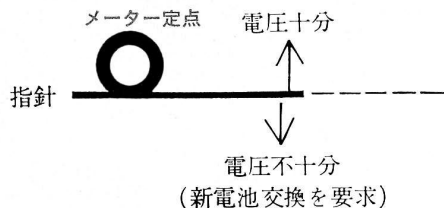
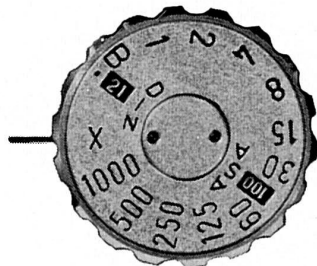
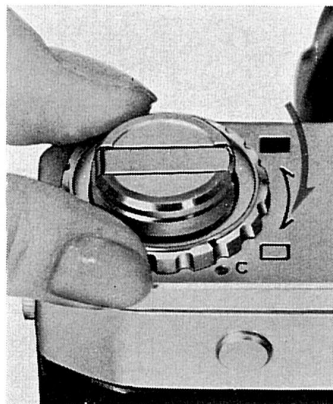
別封の水銀電池を電池室につめてください。

水銀電池は内蔵の CdS メーターの電源ですから、これを入れ忘れるとメーターは作動しません。

- 1 水銀電池室カバーに指の腹を押しあてるとして左回しに回してははずし、
- 2 水銀電池の中心接点のある方を奥に向けて落としこみ、蓋をねじこみます。

挿入のさい⊕⊖を間違えぬこと。逆に入れますとメーターが正しく働りませんし、蓋もねじこめません。

- ・水銀電池はナショナル製 M-1D または東芝製 TH-MC が使用されており、米国の Malloy RM 625, Eveready E 625, General No. 625 に相当し、約 1 カ年の連続使用に耐えます。
- ・汗や指紋をつけぬこと。  
水銀電池は乾いた布でよく拭いてから入れてください。汗や指紋をつけると腐蝕の原因になり、特に中心接点は汚れをきらいます。汚れたまま挿入しますとカメラの接点を損うおそれがありますから、十分ご注意ください。
- ・長期間使用しないときは、水銀電池をはずして乾燥した場所に保存しておいてください。



## バッテリーチェック

水銀電池を挿入したときには、必ずバッテリーをチェックしておきます。特に新しい電池と交換したときはその電圧を確かめることが必要です。

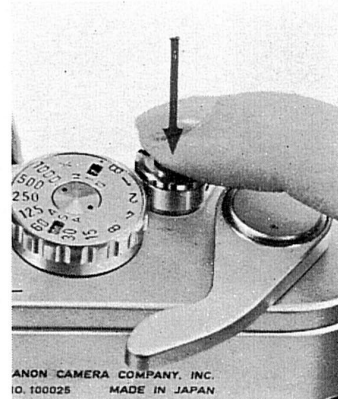
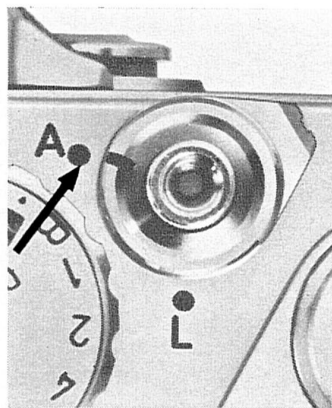
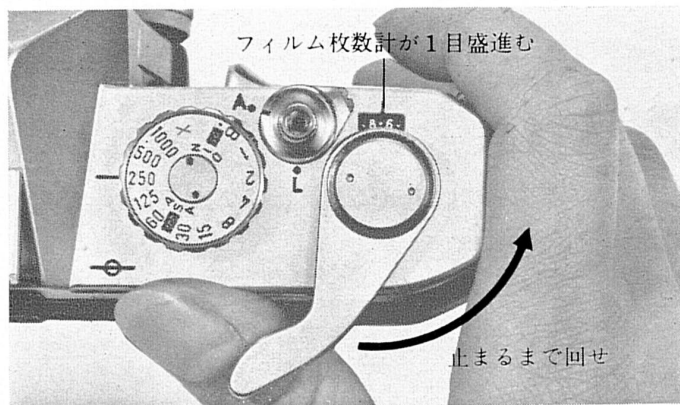
**1** シャッターダイアルの感度目盛を **ASA 100** にセットし、指標に **X** を合わせてください。感度の合わせ方はシャッターダイアル周辺のリングをもち上げて回します。(16頁)

・これ以外の目盛りにセットすると正しいチェックができません。

**2** 巻戻しクランク外側のチェックリングを回して指標を **C** に合わせます。

**3** このときファインダー内のメーター指針が定点の丸印指標下弦よりも上方に振れば電圧は十分です。もし指針が定点よりも下方にあれば電圧不十分ですから電池を交換してください。

・キャンペリックス **QL** ではメーター測光レバーを押したときのみ電流が流れるようになっています。



## 巻上げ

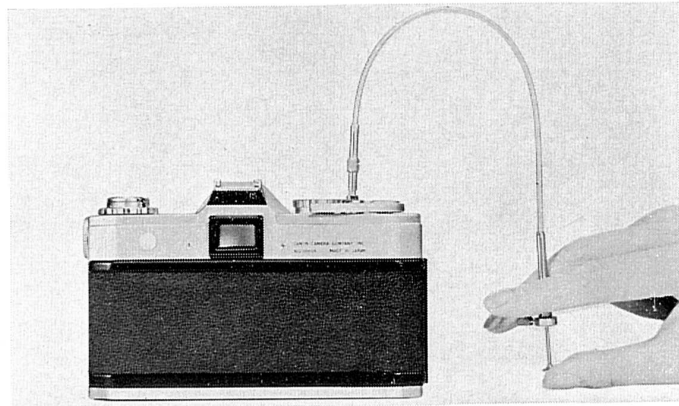
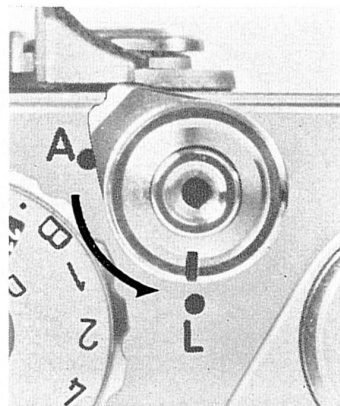
**1** 巻上げレバーはシャッターとフィルムの巻上げおよび絞りの作動チャージなど内部機構の巻上げを一回で行うものです。

巻上げレバーを完全に止まるまで回すとフィルムが1コマ分送られてシャッターが巻上げられます。同時にフィルム枚数計も1目盛進みます。

**2** シャッターボタンを押すと同時にプリセット位置までレンズが絞られ、シャッターが作動します。巻上げレバーは、シャッターの作動後、直ちに巻上げできる状態になります。

- ・シャッターボタン安全ロックの指標がAの位置にないと巻上げできません。
- ・巻上げは、レバーを小刻みに動かしてもできます。
- ・巻上げが完全でないと、シャッターボタンを押してもシャッターが作動しません。その場合には、もう一度巻上げを確かめてください。
- ・フィルム装填後の、第1回目の巻上げのときレバーが空送りすることがありますから念のためもう一度巻上げてください。





## 撮影枚数表示

フィルムが1コマ巻上げられるごとにフィルム枚数計が1目盛進んでフィルムの撮影枚数を知らせます。目盛は裏蓋を開くと自動的にスタートマーク S まで戻ります。

## シャッターの安全装置

シャッターボタンのまわりにある、安全ロックを L の位置に回すと、シャッターがロックされて動きません。巻上げたままの携行にご利用ください。

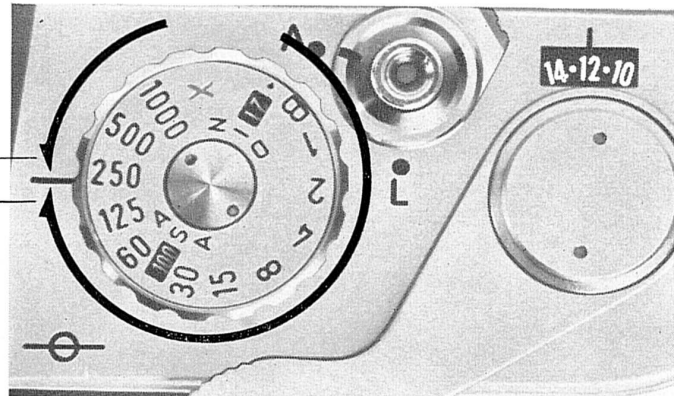
## レリーズの取付け

シャッターボタンには、レリーズがつきます。レリーズを取付けるにはレバーを巻上げる前に行ってください。

- 安全ロックレバーが L の位置にあってもレリーズを使うとシャッターが作動します。ご注意ください。
- レリーズ使用の際には撮影の直前にアイピースシャッターを閉じてください。(33 頁参照)

Xで止まったら反対に回す

Bで止まったら反対に回す



## シャッターと絞りの調節

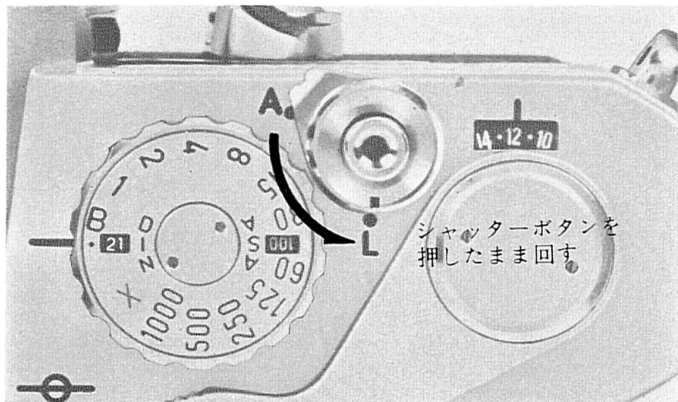
シャッターを開いてフィルムに光を与えることを露出または露光といいます。シャッターと絞りは、この露出の調節をするもので、シャッターは露出時間の調節を行い、絞りは光の量を調節します。ペリックス QL では定点式 TTLM メーターを使用して簡単に適正露出が得られます。

### シャッターダイヤル

これを回して、必要の目盛を指標に合わせるとスピード調節が行われます。

ダイヤル上の目盛は 1/1000 秒、1/15 秒などという場合の分母が目盛られています。

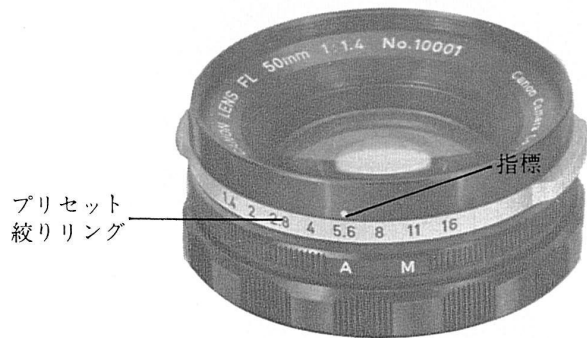
- ・ X, B 目盛の間は回転できません。
- ・ B はバルブ露出で、シャッターボタンを押している間シャッターが開いていますから、1 秒以上の長時間露出に用います。
- ・ 極長時間の T (タイム) 露出が必要なときは B にセットし、シャッターボタンを押したまま、T ロックレバーを回して指標を L に合わせてください。こうすると指を離しても露出が続けられ、レバーを A に戻すとシャッターがしまります。
- ・ T 露出はロック付レリーズを利用するすことによってもできます。



- ・ X目盛はスピードライトの同調用です。シャッタースピードとしては1/60秒ですが、実際にはスピードライトの閃光時間だけのごく短い露出に相当します。
- ・ 目盛のセットはカチッと止まるクリックストップのかかる位置で行ってください。とくに B 目盛の場合は下の黒点に合わせてください。

### レンズの絞り

プリセット絞りリングを回して必要な目盛を指標に合わせます。これによって光量調節や被写界深度の

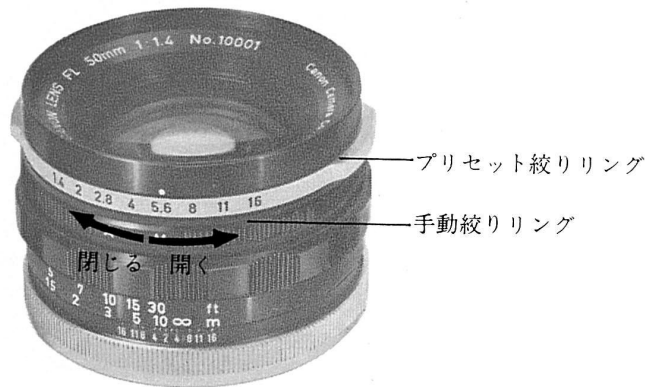


調節が行われます。

**プリセット絞り** 自動的に絞り込まれる絞りの大きさを調節する機構で、このリングを回して目盛を指標に合わせておくと、シャッターが切れる瞬間だけその絞り値まで絞り込まれます。

普段は絞り羽根が全開になっています。

つまりプリセット絞りリングは、自動的に絞りこまれる絞りの大きさをあらかじめ、きめておく調節リングです。



### プリセット絞りの解除 (手動絞り)

普通撮影で被写界深度の確認をする場合やベローズをつけたときに絞りこむ場合に用いられます。手動絞りリングを回すと、プリセット絞り値まで絞りこむことができ、これによって得られるピントの状態をしらべることができます。

絞り効果を見終ったら再び開放に戻しておいてください。

この手動絞りリングはプリセット絞りリングが開放のときは動かさないのでください。

・絞りは、その数値が大きくなるにしたがって暗くなり、目盛の一段ごとに明るさが半分になるようになっています。絞りを1目盛絞りこんだときは露

出時間を2倍にし、2目盛絞りこんだときは露出時間を4倍にしなければなりません。絞りは目盛の間も用いることができます。レンズによっては、最大口径の絞りとつぎの絞りとの間にだけ、明るさ半減の関係がないものもあります。キヤノンペリックス QL では TTLM メーターによりシャッタースピードに対応する絞り値を容易に決めることができます。

- ・絞り目盛と露光量の比率は F2<sub>1</sub> を基準としてつぎの通りです。

絞り値

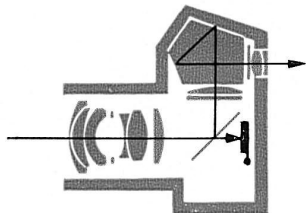
1.2 1.4 1.8 2 2.8 3.5 4 5.6 8 11 16 22

露出比率

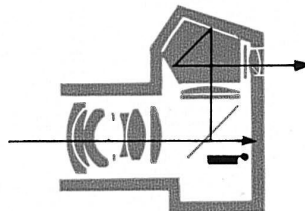
1/3 1/2 1/1.2 1 2 3 4 8 16 32 64 128



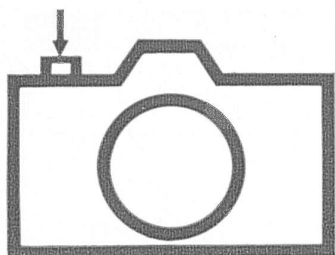
# 固定ミラーと絞りとシャッターの関係



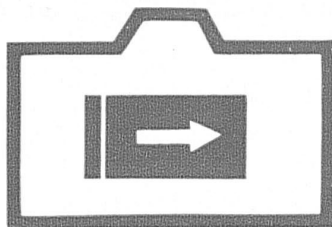
ピント合わせと測光



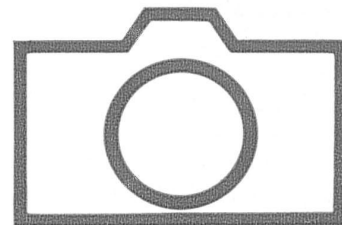
撮影状態



シャッターボタンを押す



シャッターが切れる



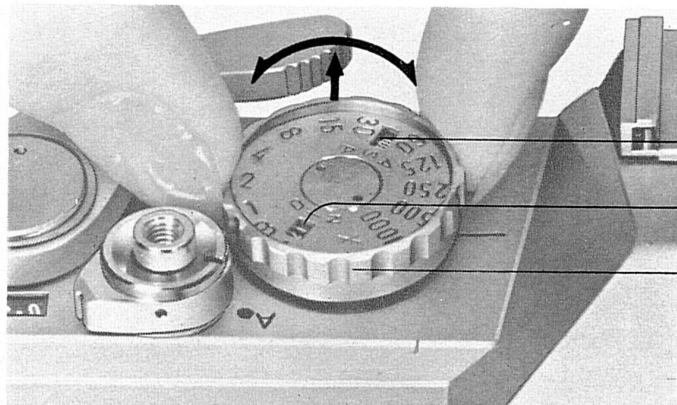
撮影完了



絞りが閉じはじめる

プリセット位置まで絞られる

絞りが開きはじめる



ASA感度表示窓

DIN感度表示窓

外側の感度セツtringを  
持ち上げて回す

## TTLメーターの使い方

キヤノンペリックスQLのメーターはシャッターダイヤルと絞りに連動する定点式で、被写体の明るさに応じてつねに適正露出の撮影が簡単に行えます。露出のきめ方にはシャッターを先に選ぶ場合と、絞りを先に選ぶ場合の2通りありますが、いずれにもなれることが、よい写真を写すために必要です。

### その準備

使用フィルムの感度を小窓に出します。それにはシャッターダイヤル周囲の感度セツtringをつまんで持ちあげて回します。フィルムがSSならASAの小窓に100を出し、落としこんでセットします。

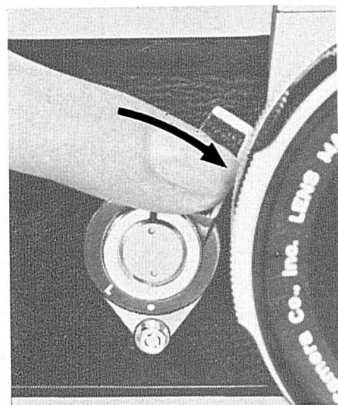
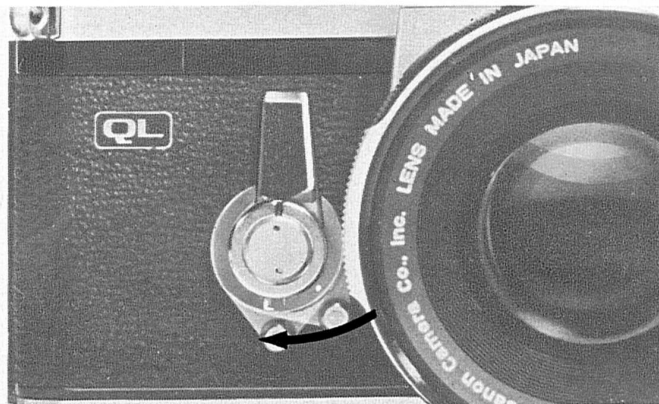
・小窓に **ASA 25** が出たときは、それ以上左へ回せません。逆に **2000 (・)** が出たときは右へ回せません。

・使用できるフィルム感度

	(32)	(40)	(64)	(80)	(125)	(160)	(250)	(320)	(500)	(640)
<b>ASA</b>	25	・	50	・	100	・	200	・	400	・
<b>DIN</b>	15	・	18	・	21	・	24	・	27	・
	(16)	(17)	(19)	(20)	(22)	(23)	(25)	(26)	(28)	(29)

	(1000)	(1250)	(2000)	
	800	・	1600	・
	30	・	33	・
	(31)	(32)	(34)	

カッコ内の数字は中間の点に相当する感度です。  
・フィルムの感度は外装箱か説明書に明示されています。



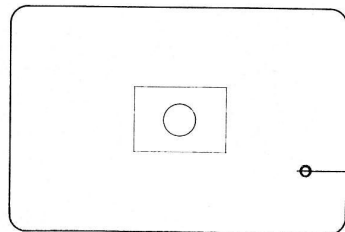
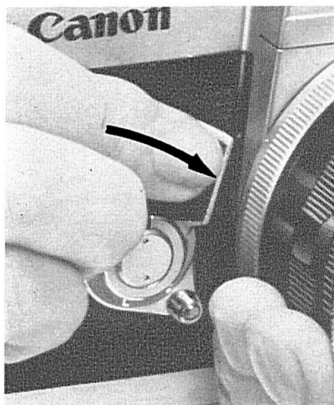
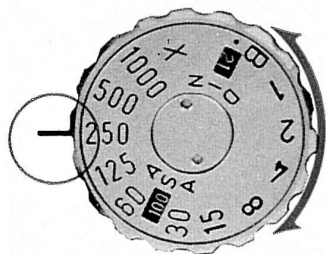
## メーター測光レバーのロック

測光レバーを押したままロックレバーのつまみをL 指標方向（ロック位置）に移動させると測光レバーは固定され、メーターはスイッチインされた状態となって作動を続けます。

- はじめにロックレバーのつまみをL 指標に位置させ、測光レバーを押し込んでも測光レバーはロックされます。
- 測光レバーをロックすることにより、レバーを押す操作から開放され、ことに長い焦点距離をもつ交換レンズ使用時に便利です。  
また照度の異なる被写体の撮影には連続的にし

かも迅速に測光ができます。

- 測光レバーをロックしたままではシャッターが切れません  
ペリックス QL は固定ミラーとフィルム面の間にCdS 受光体をおき測光する方式です。  
従ってロック状態では受光体起きて測光位置にあり、シャッターは切れない機構となっています。
- 不用意にロックされた状態を続けると、メーターに電流が流れ続け水銀電池の消費を早めます。測光が完了次第、ロックレバーを開放位置（白丸指標）に戻してください。
- ロックレバーをロック位置に移しても測光レバーを押さない限りメーターは作動しません。

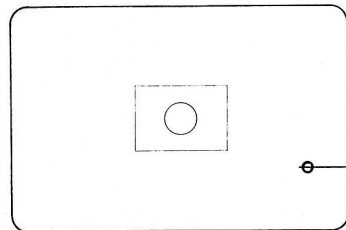
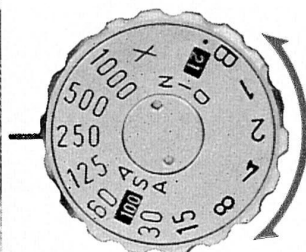
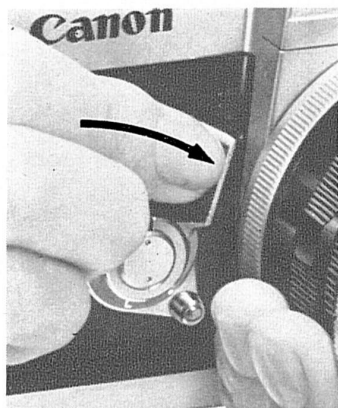


## 露出のきめ方1. (絞りで調節)

- 1 シャッタースピードをセットします。
- 2 カメラを被写体に向けてファインダーをのぞき、測光レバーを押さえます。
  - ・レバーはストップするまで十分に押すこと。
- 3 そのまま絞りリングを回して
- 4 ファインダー内の定点にメーター指針を合わせる  
と適正露出にセットされます。
  - ・キャノンペリックス QL は、内蔵メーターの受光部を固定ミラー後方のフィルム面に最も近い位置に置いたキャノンの誇る新 TTLM 方式を採用しているため、きわめて正確な測光ができます。
  - ・測光レバーロック (17 頁参照)

- ・ファインダー内のプリズムスクリーン外側にある □ 枠は CdS 受光部と同一の面積になっており、この枠内に被写体の中心となる部分を置いて測光する方式で、撮影者の作画意図を生かした露出の決定ができます。  
したがって従来の露出計ではむずかしかった逆光時の露出決定などにも大きな威力を発揮します。
- ・シャッターダイアルの B 目盛、X 目盛での測光は意味がありませんから用いないでください。  
B は 1 秒以上の長時間露出、X はスピードライト用ですから露出計では測定できません。
- ・逆光時には必ずレンズフードをご使用ください。



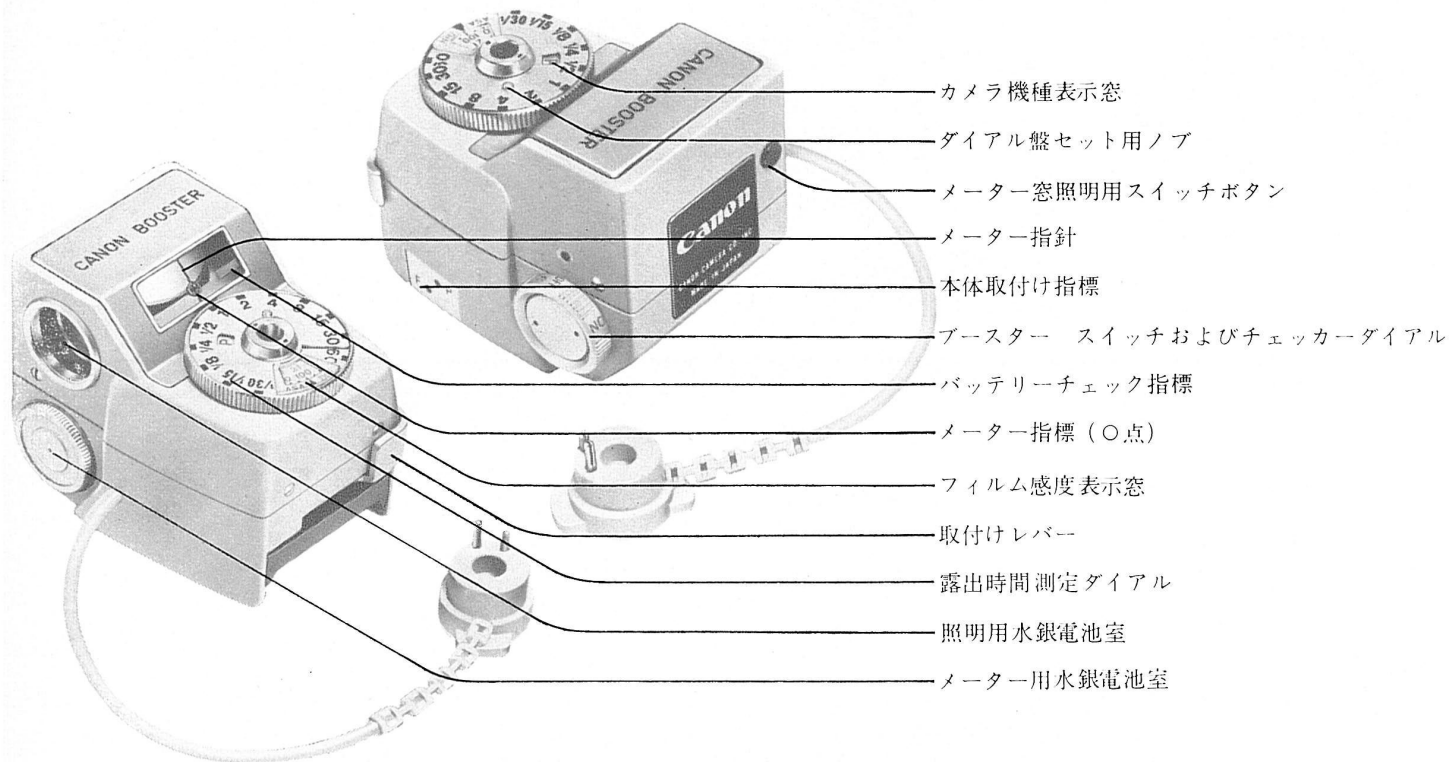


## 露出のきめ方2. (シャッターで調節)

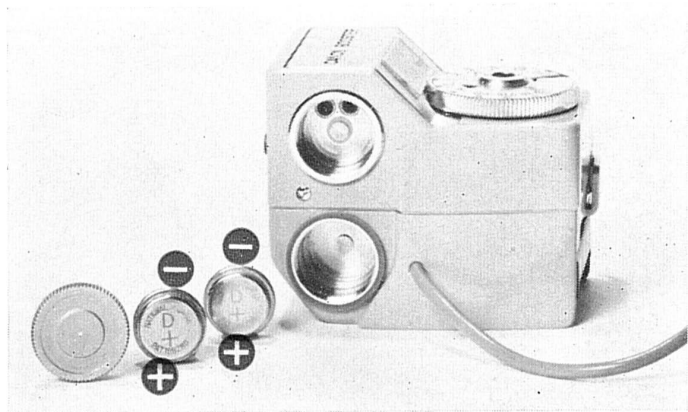
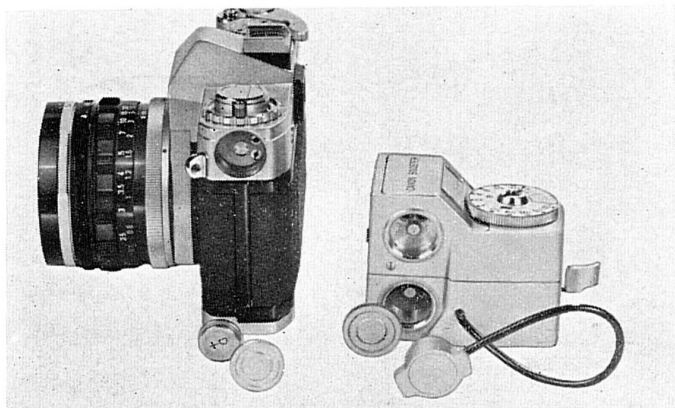
- 1 レンズの絞りを使いたい絞り値にセットします。
  - 2 カメラを被写体に向けてファインダーをのぞき、測光レバーを押さえます。
  - 3 そのままシャッターダイヤルを回して
  - 4 ファインダー内の定点にメーターの指針を合わせると適正露出にセットされます。
- ・シャッターダイヤルは目盛の中間が使いませんが、絞りは目盛の中間も連続的に利用できます。露出を厳格に考える場合はシャッタースピードを先に決め、これに応じて絞りを加減するのが最も合理的といえましょう。

- ・メーター使用中、明るさの変化によって針の動きが鈍る場合がありますが、CdSの特性によるものですから心配ありません。

キヤノンブースター（超高感度補助メーター）別売りアクセサリ 価格 9,800円



	20	32	40	64	80	125	160	250	320	500	640	1000	1250	2000	2500	4000	5000	8000	10000
ASA	· 25	· · 50	· · 100	· · 200	· · 400	· · 800	· · 1600	· · 3200	· · 6400	· · 12800									
DIN	· 15	· · 18	· · 21	· · 24	· · 27	· · 30	· · 33	· · 36	· · 39	· · 42									
	14	16	17	19	20	22	23	25	26	28	29	31	32	34	35	37	38	40	41



## キャノンブースターの使い方

ブースターはペリックス QL に接続して超低照度の暗い被写体を測光する補助メーターです。

### 性能

測光範囲： ASA 100 のフィルムに対して EV 1.5 (F1.2 1/2 秒) ~ EV -4.5 (F1.2 30 秒)

測光方式： ゼロメソッド・(ガルバノメーター内蔵) 露出時間直続式，

受光体： ペリックス QL の CdS 受光体を利用。

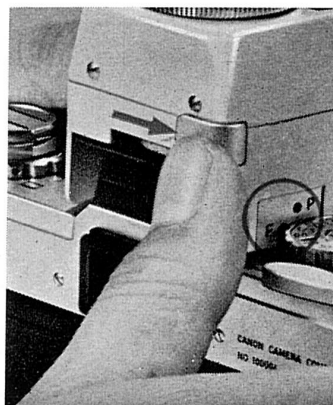
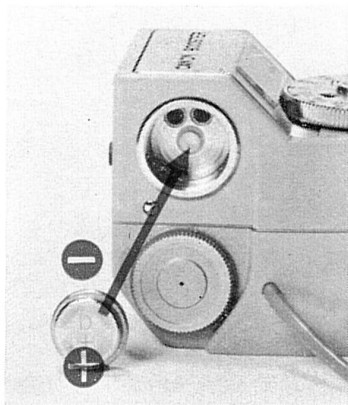
露出時間目盛： 60, 30, 15, 8, 4, 2, 1, 1/2, 1/4, 1/8, 1/15, 1/30 秒 (PX QL の場合)

電源： メーター作動用・水銀電池 1.3 V MD 型 2 コ使用。

メーター窓照明用・水銀電池 1.3 V MD 型 1 コ使用 (カメラ側の電池を取外して流用する)

電池チェッカー： 電源スイッチ兼用チェッカーにより電圧の良否測定が可能。

大きさ・重量： 65×54×39 mm/180 g



## 準備と取付け

**1** 水銀電池室蓋を左回しに回し、水銀電池 1.3V MD 型を 2 コ、取付け部底面にある装填図にしたがって装填し、蓋を閉じます。

・装填が終わったら、ブースタースイッチを“C”に回し電圧の良否をチェックします。ブルー指標にメーター指針が完全にかかっているならば良好、ブルー指標の縁に少しかかる程度でしたならば 2 コとも別の新しい電池と交換してください。

**2** 次にカメラ側の水銀電池を外し、照明用水銀電池室（接続コードのプラグを抜き取る）

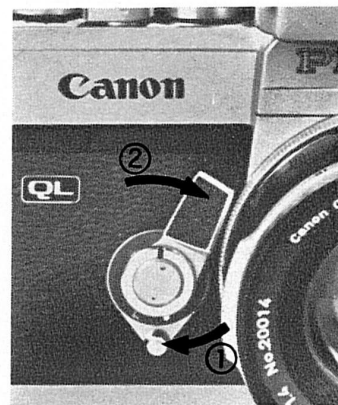
に入れカメラ側の電池蓋で蓋をします。この水銀電池はメーター表示窓の照明用電源となります。

ブースターの取付けには、最初取付けレバーを手前に引出しておきます。

次にブースター右側面にあるペリックス QL 用指標 P 点をカメラのシャッターダイヤル指標上に合わせ、(F 点は FT QL 用を示します)

**3** 取付けレバーを回し、カメラのアクセサリーシュー上に締めつけます。

**4** 接続コードは先端のプラグをカメラ側水銀電池室内のソケットに差し込みます。



**5** メーターダイヤル上の透明のアクリル板（感度表示部）をおさえ、ダイヤル盤セットノブを回して機種表示窓に機種をだします。

P→Pellix QL, F→FT QL を表わします。

**6** 次にダイヤルの外周をおさえ、感度セットノブを回して使用フィルムの感度を表示窓にだします。

<測光>

**1** まず任意の絞り値をレンズ側にセットし、

**2** カメラのメーター測光レバーのロックレバーをL位置に移します。

**3** 測光レバーを押します（自動的にロックされる）

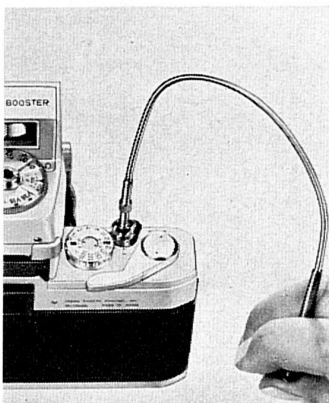
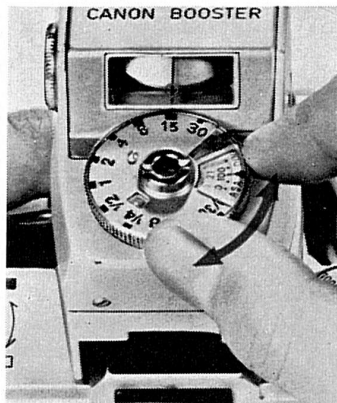
**4** カメラを被写体に向け、ブースタースイッチをONにセットする。

**5** ONにして5~6秒たってからメーターダイヤルを回し指針をO点に合わせます。

さらに10秒以上経過すると指針は微動しますからダイヤルを回し、O点に合わせ直します。このようにすると完全な適正露出値が得られます。

- 最初の5~6秒間で得た値は±0.5絞り以内に入りますから、この値で撮影しても何ら支障ありません。

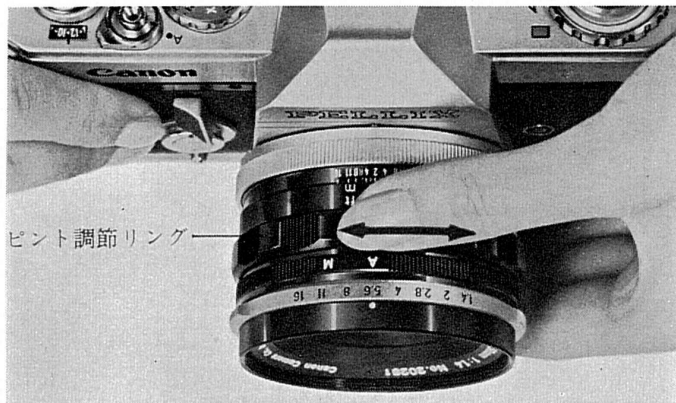
**6** そのときのO点位置にある露出時間を読取りカメラ側シャッターダイヤルに移します。



1秒以上の低速ではダイヤルを **B** にセットし、ケーブルリリースを用いて露光をあたえます。

- ・暗くて指針を合わせにくい場合にはメーター前面の照明スイッチを押し、表示窓を照明してください。





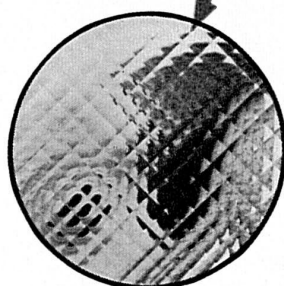
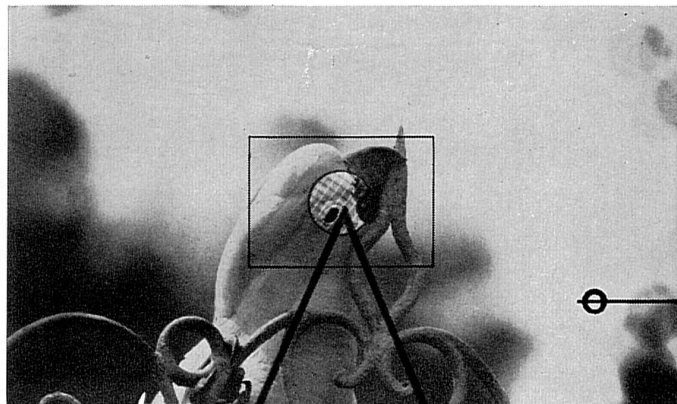
## ピントの調節

ファインダーを覗きながら、レンズのピント調節リングを回します

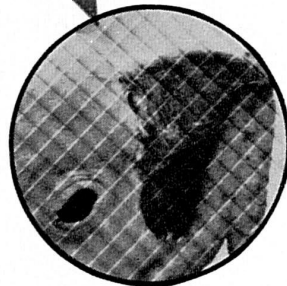
ファインダー視野中央の円型内の像が一致したときピントが合い、像がくずれたときピントがはずれます。

- ・視野中央の円型は、微細な特殊プリズムを合成した焦点調節スクリーンです。ピントが合っていないときは像が極端にくずれて見えます。ピントが合ったときは円型内の像と同一程度の距離にある被写体は、円型外の視野内でも同じく鮮明に見えます。

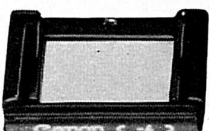
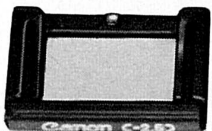
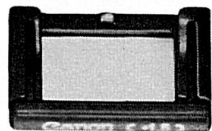
したがって平面的な被写体の場合には円型外のマツトガラス面上でもピント合わせをおこなうことができます。



ピントがはずれている



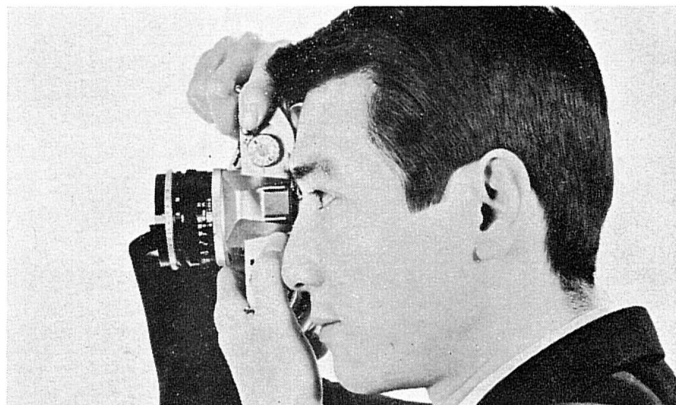
ピントが合っている



## 構図とファインダー

● ファインダーには視度補正レンズが用意されており、これを接眼部に取付けると近視や遠視眼の方が眼鏡なしで鮮明な被写体像を見ることができます。  
+1.5, 0, -2.5, -4, (ジオプター) の 4 種

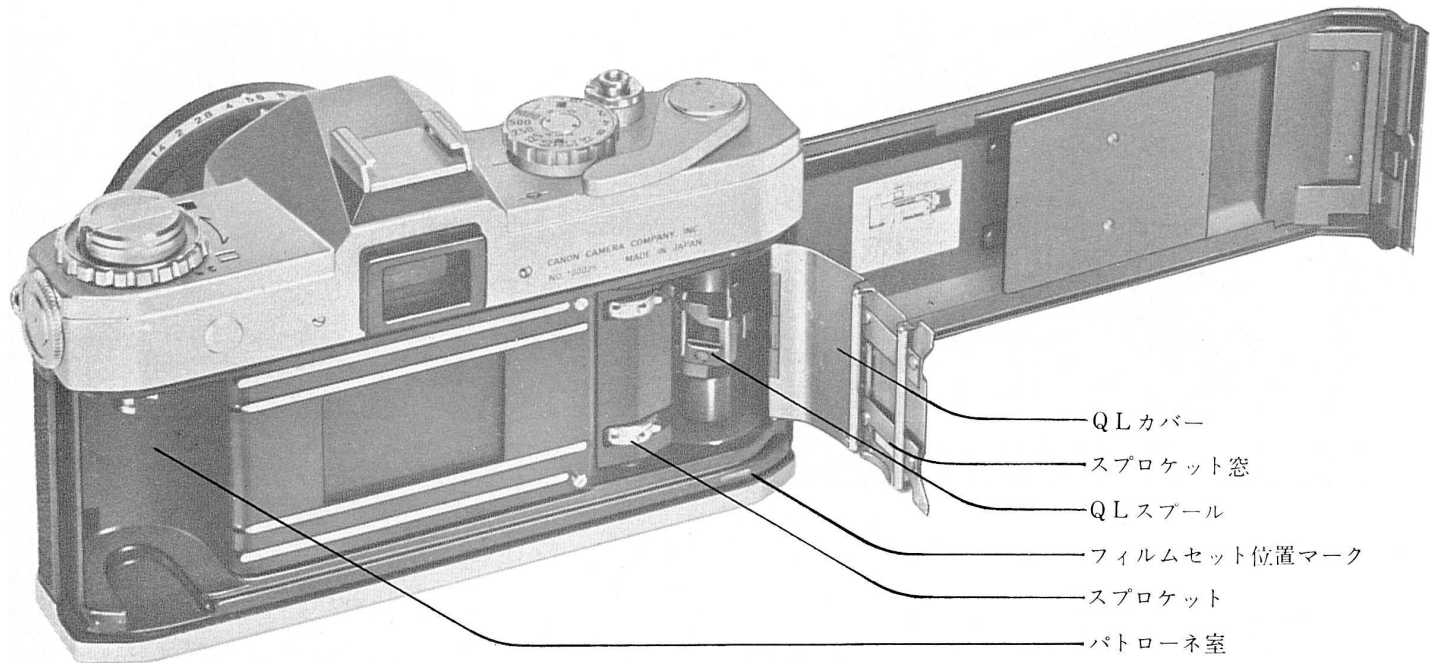
・接眼部にはウエストレベルビューワー 2 型が取付けられ上から覗けます、像は左右反対像となって見えますが、複写・拡大・顕微鏡写真撮影などに用いると有利です。

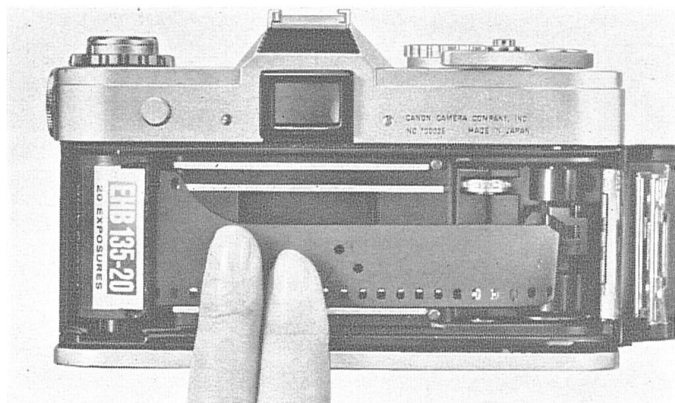
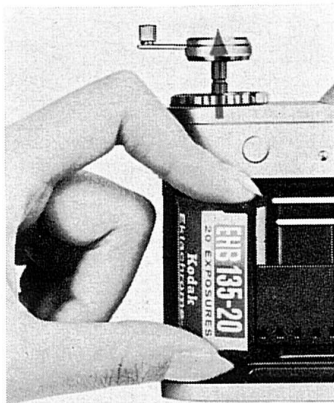
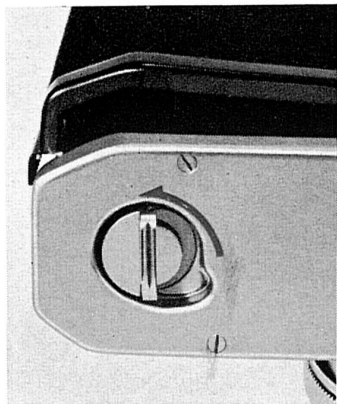


## カメラの構え方

撮影の際カメラを確実に構えることは鮮鋭なピントの写真をとるために最も大切なことです。カメラは縦位置または横位置の状況に従って写真のように持ち、ファインダーを覗いて構図の決定をすると同時にピント合わせをし、それから静かにシャッターを切ります。その際とくに次のことが大切です。

- 1 両手は努めて深くカメラを握り込むこと。
  - 2 カメラを頬あるいは額に当てて固定すること。
  - 3 横位置のときは両ひじ、縦位置のときは少くとも一方のひじをピッタリ体に付けること。
- ・シャッターボタンを乱暴に押すことはカメラブレの原因になります。
  - ・撮影には三脚とレリーズを使う方が確実です。特に1/30秒以下のスローシャッターを切るときはこの点にご注意ください。





## フィルムのつめ方 (QL装填)

使用フィルム：市販の日中装填用パトローネ入り35mmフィルムをご用意ください。装填の際は直射日光下を避けてのお取扱いをお勧めします。

### 1 裏蓋を開きます。

開閉つまみを引起して左回しに半回転すると裏蓋が浮上ります。

### 2 パトローネを入れます。

裏蓋を開き、巻戻しフォークを親指で十分に押し上げます。パトローネを取めたならば巻戻しノブを押し下げ、元の位置に戻します。この操作で巻戻しフォークはパトローネ軸に差し込まれます。ノ

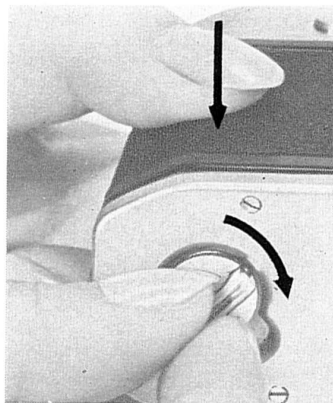
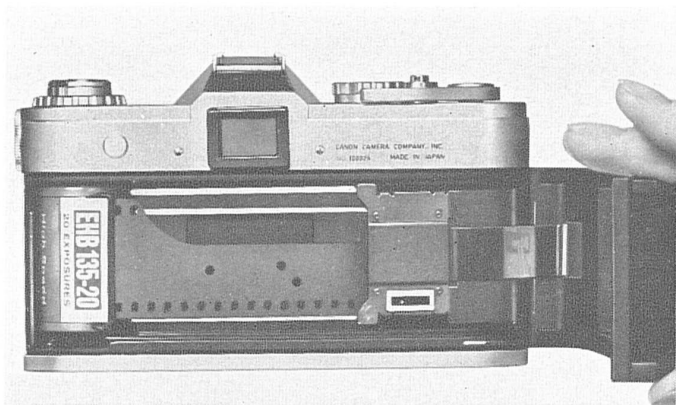
ブが完全に戻りきらないときは下に押し気味にしながらノブを左右に僅か回してください。簡単に収まります。

### 3 フィルム先端をマークに合わせます

パトローネの向きを写真のように整え、フィルムを上向きに浮かせないよう左手でおさえながら

### 4 裏蓋を半ば閉じると、

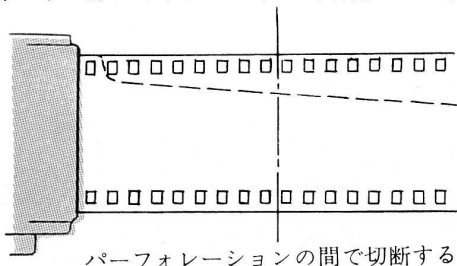
QLカバーがフィルムをおさえます。スプロケット窓でフィルムが歯車に正しくかかっているかどうかを確認します。



## 5 裏蓋を閉じます

裏蓋が浮上らぬよう押さえて、開閉つまみを回してください。

- ・暗室装填用長巻きフィルムを使用するときはリーダー部の先端を下図のように切断してください。

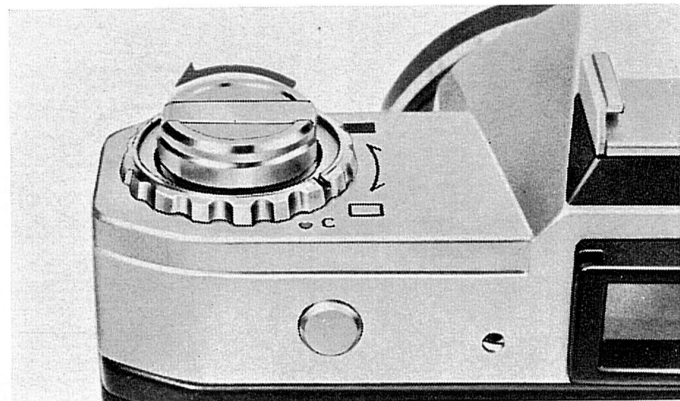
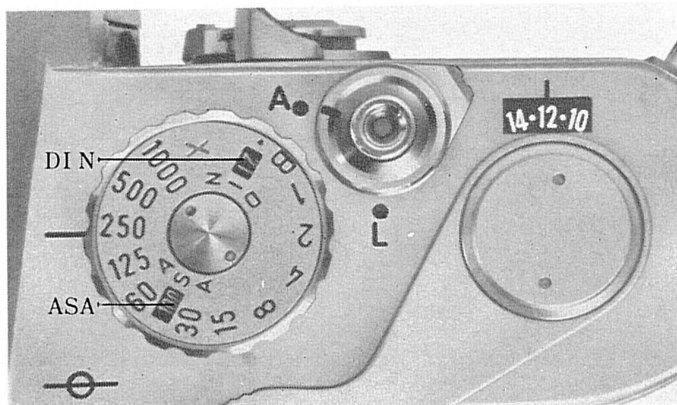


## 6 3回空写し

レンズキャップをかぶせたまま、巻上げてシャッターを切る操作を3回繰り返してください。(空写しといいます)

フィルムカウンターのマークはSから0になり、次に巻上げると1枚目を表わす(・)に進み撮影準備ができます。





### フィルムの感度表示

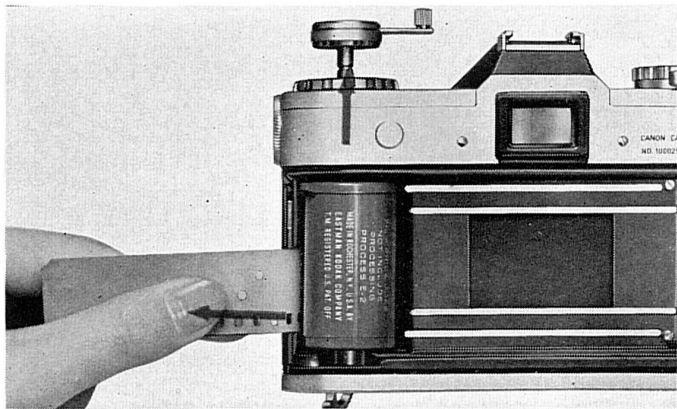
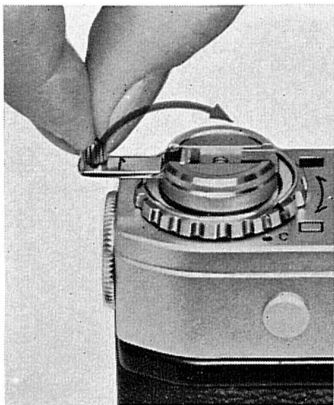
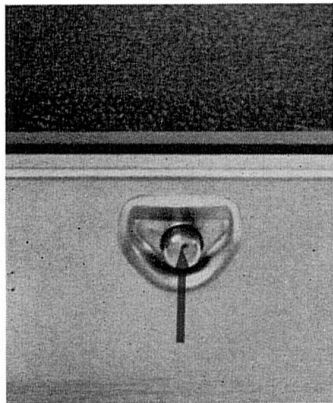
フィルムの装填をしたときには、忘れずにそのフィルム感度を、シャッターダイアルの小窓に表示しておきます。セットのしかたは16頁のフィルム感度の合わせ方をごらんください。

これを怠るとメーターによる適正露出が得られなくなります。

### “正しいフィルム装填”の確認

巻上げをするたびに、巻戻しノブが反時計方向に回ればフィルムが正しく装填されている証拠です。もし回らなければフィルムにたるみがあるかスプロケットにパーフォレーションが、かかっていない場合です。

巻戻しノブを回してたるみを取り、またはフィルムが送られていないときは一旦巻戻し（32頁）てから装填しなおします。



## フィルムの巻戻し

フィルムが終りになると巻上げができなくなりますから、つぎの順序にしたがってフィルムを直ちにパトローネに巻戻します。撮影されたフィルムはカメラの中で裸のまま巻取られていますから巻戻さずに裏蓋を開くと全部感光し、無駄になります。ご注意ください。

**1** 巻戻しボタンを押しこむ

**2** クランクで巻戻す

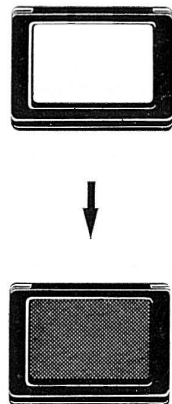
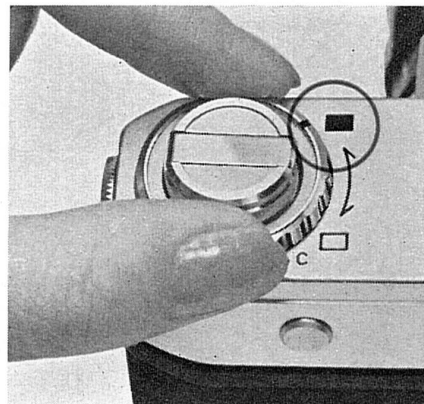
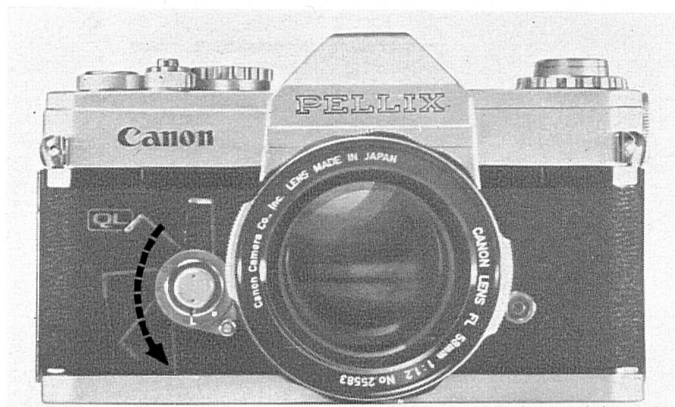
巻戻しクランクを引起し、矢印方向に回し、フィルムをパトローネに巻戻します。  
巻戻し中、巻戻しボタンの回転が止ったら（巻戻し抵抗が軽くなる）直ちに巻戻しを中止します。

**3** 裏蓋を開き

**4** パトローネを取出します

巻戻しノブを十分引上げて取出してください。

- ・巻戻しボタンは、一度押したなら指を離してもさしつかえありません。レバーを巻上げると、このボタンは自動的に戻ります。
- ・フィルムが終りになっているのに無理に巻上げると、フィルムがパトローネ軸から外れたり、切れたりして、巻戻しができなくなります。ご注意ください。この際には、暗室へ入ってから裏蓋を開くようにします。



## セルフタイマーと撮影

シャッターを巻上げアイピースシャッターを閉じません。

セルフタイマーレバーを矢印方向に回し、シャッターボタンを押してください。

- ・約 10 秒後にシャッターが作動します。
- ・セルフタイマーレバーは 2/3 以上巻上げること、巻上げ位置によって時限調節ができます。
- ・シャッターの巻上げを忘れ、セルフタイマーのみを巻上げてシャッターボタンを押すと、セルフタイマーだけが作動してシャッターが切れませんからご注意ください。
- ・セルフタイマーレバーは巻上げ後、直ちに定位置

に戻して測光に使用することができます。

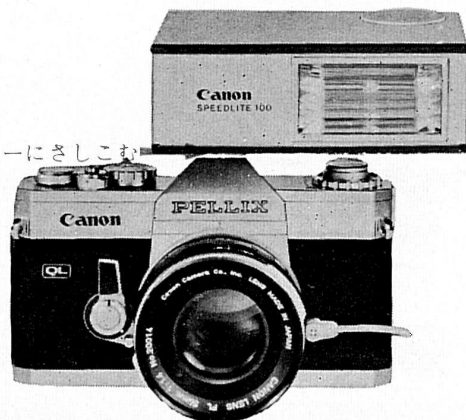
### アイピースシャッター

キヤノンペリックス QL はペリクルミラーを採用しているため、ファインダーの接眼窓に強い光を受けると、光線が逆行してフィルム面にゴーストを生ずることがあります。

したがって接眼窓から目を離して行うセルフタイマー撮影やレリーズ撮影の場合には、必ずアイピースシャッターを閉じてください。

- ・アイピースシャッターを閉じるには、アイピースシャッターリングを左に回してリング指標を□から■に合わせます。

アクセサリシューにさしこむ



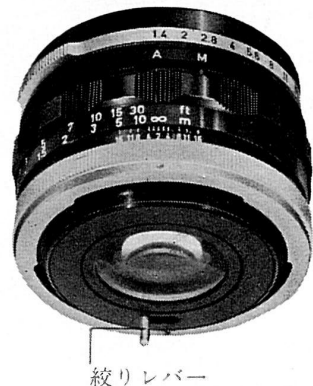
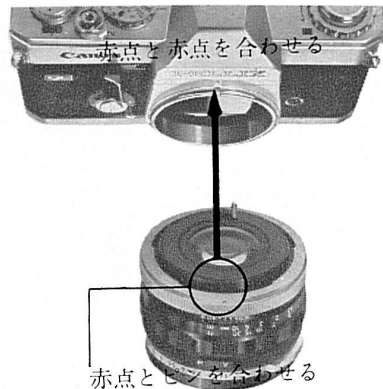
## フラッシュ同調

カメラのフラッシュターミナルにフラッシュユニットまたはスピードライトのコードを接続して、右表の各シャッタースピードで同調撮影ができます。

- ・ X 印の部分は使用できません。
- ・ フラッシュ撮影の場合も レンズフードは有効です。
- ・ X 接点のシャッタースピードは 1/60 秒に相当します。
- ・ フラッシュターミナルは JIS B 型

フラッシュ バルブ	同 調 範 囲												
	1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1	B	X
FP 級	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×
M 級	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×
F 級	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×
スピードライト	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
AG-1.AG-3 (GE社 U.S.A)	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×

ペリックス QL は固定ミラーを使用しているため、フラッシュ撮影のさい光量調節が必要です。ガイドナンバーから絞りを算出してその絞り値よりさらに半目盛ほど絞りを開いてご使用ください。



## レンズの取扱い

### レンズ交換

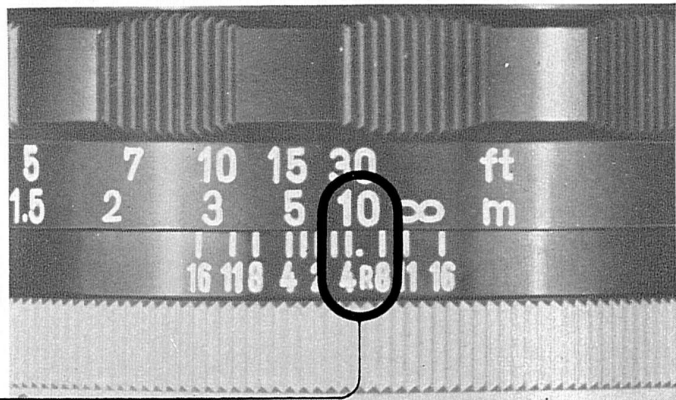
カメラからレンズをはずすには、レンズのバヨネットリングを左回しに回したのち、レンズを前方に引出します。

レンズを取付けるには、カメラのマウント部の赤点にレンズの赤点を合わせてはめこみ、バヨネットリングを右に回して締付けます。

- ・レンズ交換のさい、測光レバーがロックされたままの状態であるかどうかを確かめてください。ロックされたままの状態ですと、レンズのプリセッ

ト絞りの作動レバーがボディの連動部に連結しない位置になり、自動絞りがはたらかなくなります。ご注意ください。レンズ交換には必ず測光レバーを解除すること。

- ・取付けのさいレンズのバヨネットリングを十分に左に回してガイドピンに赤点を重ねるようにしておきます。
- ・レンズの交換をするときはカメラを強い光線に向けてはなりません。なるべく光線の弱い場所で、すばやく交換取付けをおこなってください。



- ・レンズの後端にはプリセット絞りの作動レバーがあります。このレバーは絞りを開閉する大切な部分ですから、レンズを外したときは、必ず底蓋をかぶせて保護することを忘れないでください。
- ・レンズを取外したさい、ペリクルミラーや絞りの連動部に指先をふれないようご注意ください。長く使用しないときにはカメラ蓋をかぶせて保護してください。
- ・レンズの泡は明るさを何百分の一、何千分の一か減らすことにはなりますが、この程度では撮影上全

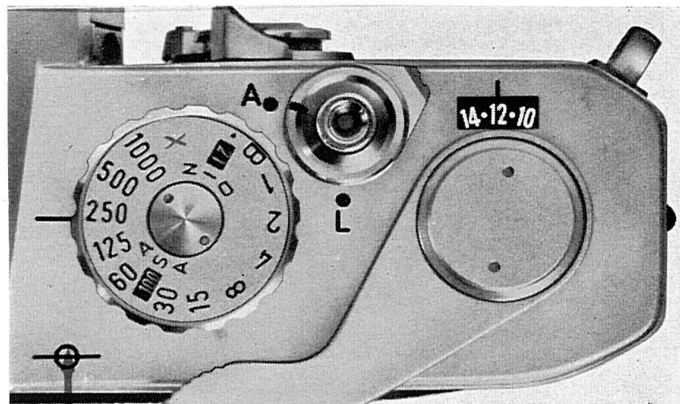
然問題になりませんし、また像の鮮鋭度にも何ら影響がありません。

### 距離目盛

距離目盛はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すものです。普通の撮影では必ずしも必要ありませんが、被写界深度を知る場合や赤外撮影あるいは、フラッシュ撮影などに必要です。

目盛は一桁数字の距離ではその文字の中心、2桁数字では2つの文字の間、3桁数字では中央文字の中心がそれぞれ正しい目盛位置になっています。





### 赤外指標 R (赤外マーク)

赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影より多少ずれますから修正しなければなりません。

まず普通にピントを合わせます。その距離目盛を赤外指標 R に合わせます。

たとえば、ピントを合わせて距離目盛が 10m とすると、この 10 の目盛を R の位置までずらせばよいわけです。

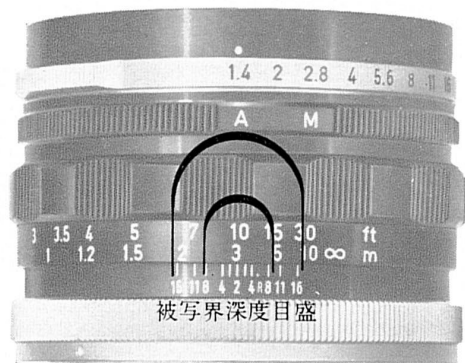
#### ・赤外指標

R の位置は  $8000\text{\AA}$  程度の波長に最大感度をもつフィルムと赤外フィルター (たとえばコダック IR 135 フォルムとラッテン 87 フィルター、または JIS の IR 77

～87 フィルター) を用いる場合を標準にして目盛っております。赤外部を使用する場合、たとえばプラス X あるいは一般のパンクロフィルムにラッテン 25 または SR 59～60 程度の赤色フィルターを添用する際などには、修正移動量を  $1/3$  くらいとするのが適当です。

#### フィルム位置マーク

レンズの距離目盛は、フィルム位置から測定した距離が目盛っております。したがって、実測によってピントを合わせる場合には、フィルム位置マークから測って、その距離をレンズの目盛にうつします。



## 被写界深度目盛

ひとつの被写体にピントを合わせると、その被写体の前後で鮮明に写る範囲があり、これを被写界深度といいます。その範囲は絞りの大きさによって変わりますから、距離目盛に関連させて、絞り数値が目盛られています。

F8 50mm 深度 約 2.3m~4.3m  
ピント合わせ 3m



被写界深度目盛の使い方は、たとえば50mmレンズで3mの距離にある被写体にピントを合わせ、F8の絞りを使うとすれば、距離指標の両側にある8の目盛に対応する距離目盛、すなわち約2.3mと約4.3mとを読みとります。そしてこの間にある被写体が鮮明であることを目盛から知るわけです。



F16 50mm 深度 約 1.9m~7.6m  
ピント合わせ 3m

同じく F16 に絞れば約 1.9m から 7.6m まで鮮明に写ることがわかります。

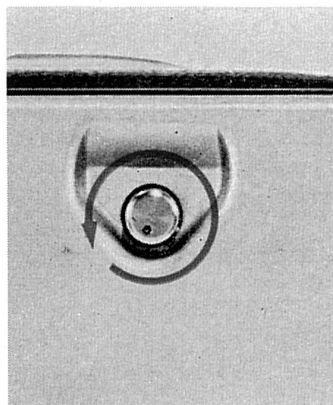
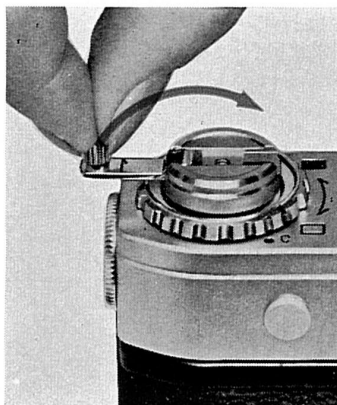
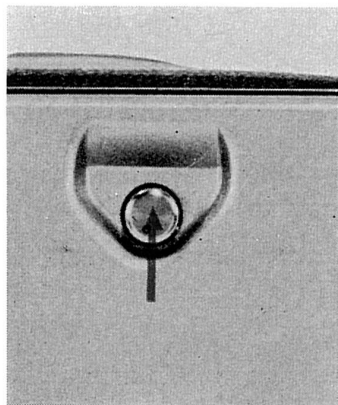
被写界深度はレンズを絞るほど、また撮影距離が遠いほど深くなり、逆の場合ほど浅くなるものです。

キヤノンペリックス QL では手動絞りをを用いることにより被写界深度をファインダーを通してしらべることが出来ます。

### レンズマウント (FL レンズと R レンズ)

キヤノンペリックス QL のレンズマウントはペリックス、FX、FP と同一ですから、FL 19 mm F 3.5 をのぞくすべての FL レンズが使用可能です。19 mm F 3.5 超広角レンズはペリックス QL、ペリックスが共に固定ミラーを採用しているため取付け使用ができませんので、レトロタイプの FLI 9 mm F3.5 R を用意してごさいます。

また従来のキヤノンフレックス用 R 交換レンズは全部取付け使用が可能ですが、自動絞り機構が異なるため撮影はすべて手動絞りで行うこととなります。



## 二重露出

キヤノンペリックス QL は通常の取扱いでは二重露出防止になっていますが、必要に応じてつぎのようにすれば、二重露出撮影ができます。

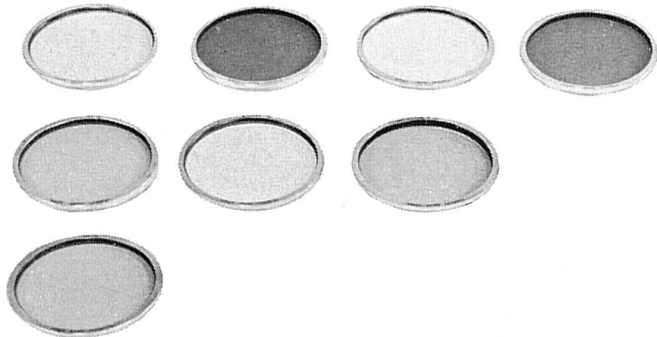
- 1 第1回目の露出が終わったら巻戻しボタンを押します。
- 2 その指標を見ながら、巻戻しクランクでフィルムを巻戻し、
- 3 指標が正しく1回転したら巻戻しを止めます。

- 4 ついで巻戻しクランクを軽くおさえたまま、レバーの巻上げを行い、巻戻しクランクに抵抗を感じたら一旦両方の手をはなします。

- 5 それから普通に巻上げをします。  
以上の操作を繰返すと同一フィルム面上に何回でも露出することができます。ただしフィルムカウンターは巻上げごとに進みます。  
・巻戻しのさい巻戻しボタンが1回転を越えないことが大切です。

58 mm (FL 50 mm F1.4, 58 mm F1.2 用) ねじこみフィルターが各種用意されており、黒白フィルム・カラーフィルムに対してそれぞれ特有の効果をあらわします。

キヤノンペリックス QL の露出計はキヤノンの誇る新 TTLM 方式ですから、露出倍数の補正は全く必要ありません。フィルター効果を存分にお楽しみください。



## フィルター

種 類	フ イ ル タ ー 効 果
UV(SL 39・3 C) 黒白, カラー共通	・紫外線だけを吸収し、各色光には無影響です。海浜、高山などの紫外線の多い所では特に有効です。カラー撮影の常用フィルターとしてもおすすめします。
Y1(SY 44・2 C)	・黒白フィルムに利用して、写すもののコントラストを強めます。海の色を整えたり、青空をおさえて白雲を浮き出させます。赤や黄色は多少明るくなります。 ・赤が極端に白くなるのを防ぎ、空や顔を適当な明るさの調子にし、新緑などの明るさもそのまま表現します。 ・青色はかなり暗く、黄や赤が見た目より大分明るくなります。コントラストを強調し遠景には特に有利です。 ・コントラストを強調し、場合によっては白昼の調子も夜景に近くなります。赤外フィルムに併用するフィルターでもあります。 ・青空や木蔭の色を自然に近づける作用をします。 ・ND 4 は 1/4, ND 8 は 1/8 に光量を減じます。カラーの色再現性には全く影響がありません。 ・タンゲステンタイプを太陽光下で撮影する場合に色温度を転換するカラーフィルム専用のフィルターです。 ・デイライトタイプフィルムを電灯光下で撮影するための色温度転換フィルターです。
Y3(SY 50・2 C)	
GI(MG 55 C)	
O1(SO 56・2 C)	
R1(SR 60・2 C) 黒白, 赤外共用	
スカイライト } 黒白, カラー共用	
ND 4 ND 8 }	
カラーコンバージョン A }	
カラーコンバージョン B }	

## カメラの保存と手入れ

**カメラの保存** カメラは湿気や埃を嫌います。長い間しまいこんで放置しておく、シミや錆を生ずることがあります。むしろしばしば使用して外気に触れさせる方が無難です。長く使用しないときはシリカゲルのような乾燥剤を入れてしまうことをおすすめします。保存の場合は、水銀電池をぬきさらに速写ケースからもはずしてください。

**カメラの手入れ** 野外で使ったカメラは塵埃がつき易く、また雨の日や海辺で使ったあとは、気付かなくても水滴や塩分を受けてシミや錆を生じ、あるいはレンズのヤケや腐蝕の原因になります。そのよう

なときは柔かい刷毛で埃を払い、乾いた柔い布で丁寧に拭きます。

レンズにはなるべく手を触れない方が無難で、ゴム球付きのブロワーで吹飛ばすか、柔い刷毛で軽く払う程度にすることをおすすめいたします。

やむをえないときは洗いさらした柔い清潔な布を棒に細く巻き、先端にわずか湿る程度のアルコール（エーテルを少量まぜればなお可）をつけ、レンズの中心から外側に渦巻きを描くようにして軽く拭きます。強く拭いたり、埃の付いているまま拭くと、かえってキズを付けますから注意が大切です。





ペリクルミラーは極めて薄いものですから絶対に手を触れないようにご注意ください。もしホコリが付いた場合にはブロワーで吹飛ばしてください。わずかのよごれやきずは画面に殆んど影響がありません。

カメラを海中に落したときは、ほとんど修理不能になります。この場合はカメラ材料店もしくは弊社サービスステーションにご相談ください。

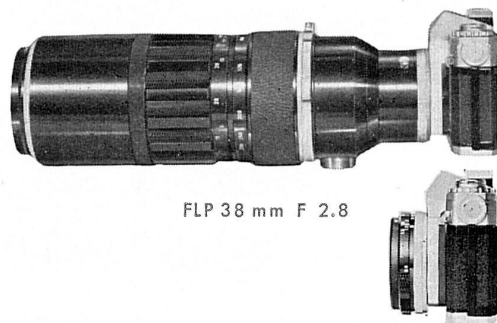
カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店にご相談くだ

さい。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見にご協力申上げることができます。あわせてカメラやレンズの番号はいつでもわかるようなお心づかいをおすすめします。

極寒地では、カメラを撮影時以外は直接外気に触れさせないように保護し、また手早く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落さずにご存じます。撮影に取出す場合、除々に外気に触れさせないと水分の凝結でレンズ面が曇り、撮影できないことがあります。



FL 85 mm~300 mm F 5



FLP 38 mm F 2.8

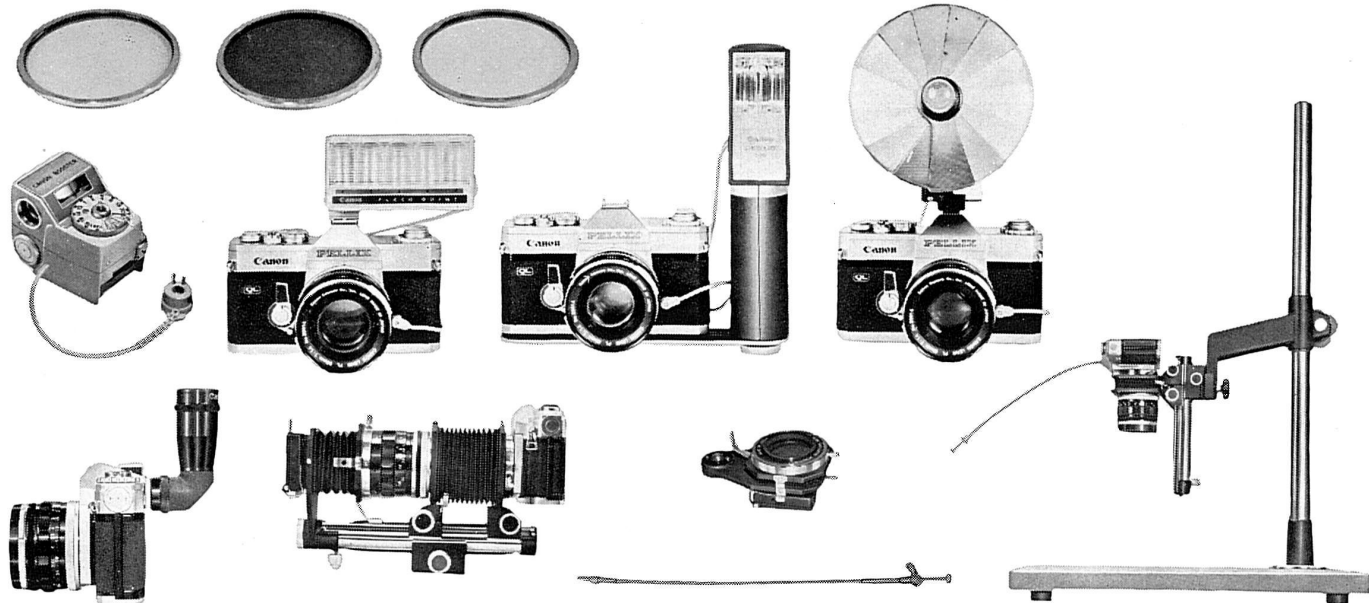
## FL 交換レンズ群

FL 19 mm	F3.5 R(レトロフォーカス)	45,000 円
FL 35 mm	F2.5	20,700 円
FLP 38 mm	F2.8 (PX QL, PX 専用)	16,500 円
FL 50 mm	F3.5 (マクロレンズ)	28,900 円
FL 85 mm	F1.8	24,500 円
FL 100 mm	F3.5	16,500 円
FL 135 mm	F2.5	24,500 円
FL 200 mm	F3.5	29,500 円
R 300 mm	F4	73,500 円
R 400 mm	F4.5	109,000 円
R 600 mm	F5.6	124,900 円
R 800 mm	F8	134,900 円
R 1000 mm	F11	130,000 円

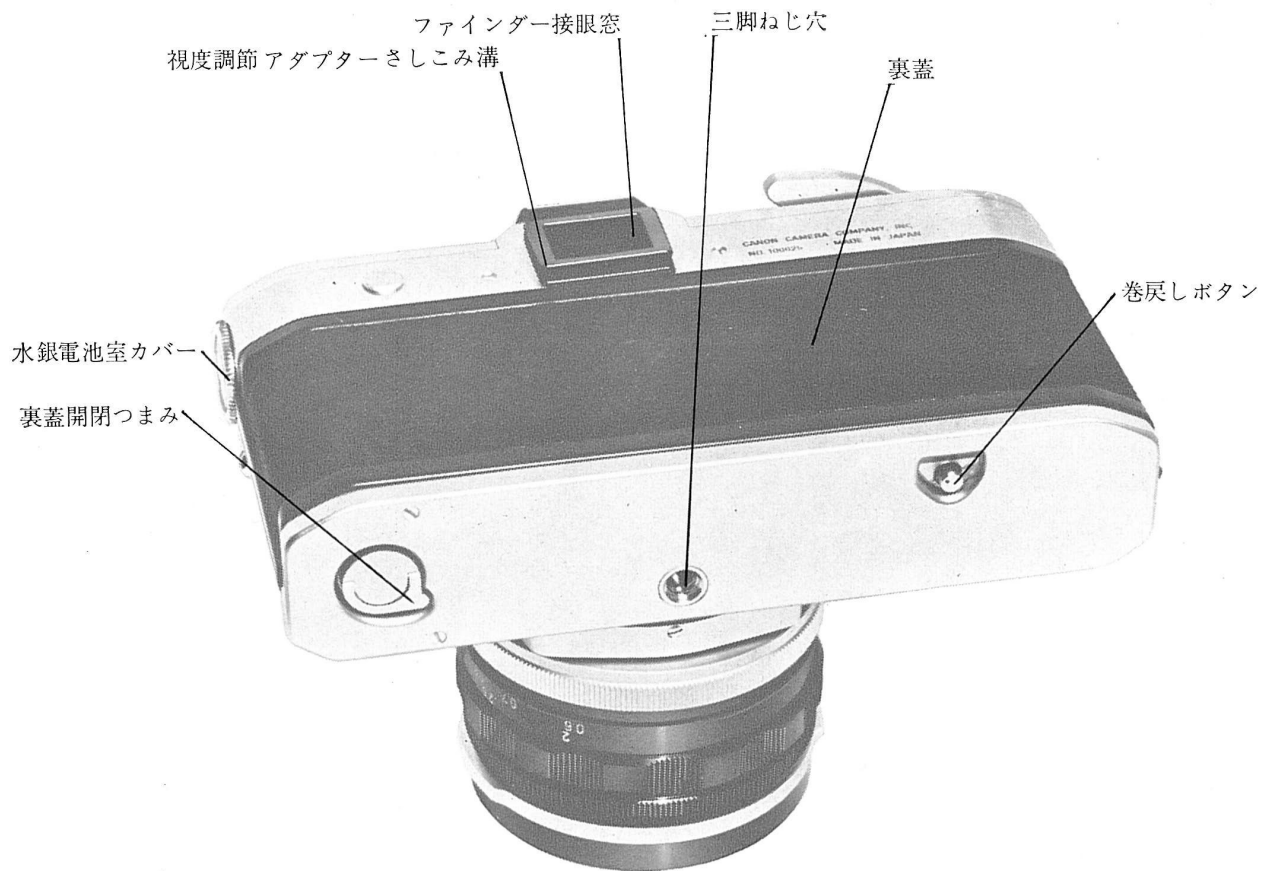
## キヤノン FL ズームレンズ

FL 55 mm~135 mm	F3.5	49,000 円
FL 85 mm~300 mm	F5	99,500 円

# アクセサリ



ブースター (超高感度補助メーター)	9,800 円	スピードライト 100 (一式)	8,800 円
ベローズ FL	14,000 円	フラッシュ V-3	3,500 円
エクステンションチューブ FL 15	2,500 円	フラッシュクイント	2,950 円
マクロフォトカプラー FL 48, FL 58	4,500 円	複写装置 3F	13,150 円
スライドデュプリケーター (複製装置)	3,500 円	58 mm クローズアップレンズ	
フィルター		240, 450, 1,800 各	2,000 円
58 mm 黒白用	1,500 円	カメラホルダー R4	2,000 円
カラー用	1,600 円	キヤノンレリーズ	250 円
レンズフード S-60	1,200 円	マイクロフォトフード	1,200 円
T-60	1,000 円		
ウエスト レベル ビューワー 2 型	3,900 円		
スピードライト 200 (一式)	15,000 円		





# キヤノンカメラ株式会社

東京・大田区下丸子3丁目30番2号 電話 738 大代表 2111

営業所・サービス ステーション

銀座・東京都中央区銀座5-3 (吹原ビル1階) 電話 572-4271~3

八重洲・東京都中央区八重洲3-1 (大久保ビル2階) 電話 271-0391~2

大阪・北区梅田 2 (第一生命ビル2階) 電話 341-9335

名古屋・中村区広小路西通3 (大商ビル6階) 電話 581-3811~4

福岡・天神 1-11-17 (福岡ビル9階) 電話 76-2818・1061

広島・広島市職町 14-11 電話 21-4615~6

札幌・北三条西 4-1 (第一生命ビル4階) 電話 23-5788・22-7322

仙台・東二番丁 68 (富士ビル8階) 電話 25-0215~7

新潟・新潟市東大通1-23 (マルタケビル7階) 電話 44-0758~9

静岡・静岡市御幸町9-2 (大吉野ビル2階) 電話 55-2241

